

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷四第

行發日一月六年六正大

論說

中壽ノ説(一)……………法學博士 財部 靜治
 奢侈税ノ本質及其構造……………法學博士 神戶 正雄
 『座』ノ研究(三、完)……………文學博士 三浦 周行
 東洋ニ於ケル古代ノ社會政策……………瀧本 誠一

時事問題

船腹調節策……………法學博士 戶田 海市
 禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃……………法學博士 神戶 正雄
 米國ノ勞働缺乏ト日本移民……………米田 庄太郎

雜錄

Utilityノ譯語ニ就イテ……………法學士 小島 祐馬
 海上保險發展史ニ關スル一異説……………法學士 小島 昌太郎
 山片幡桃ノ米價論……………法學士 本庄 榮治郎
 精神の活力ト年齡……………法學博士 河 上 肇
 佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來……………山本 美越乃
 Ch. Boothノ死ヲ聞キテ……………法學博士 財部 靜治

山片幡桃ノ米價論

本庄榮治郎

(一)山片幡桃ノ米價論ニツイテハ既ニ拙著『江戸幕府ノ米價調節』ニ於テ『夢ノ代』ニアラハレタル一節ヲ紹介シオケリ(五七—六〇頁)。然ルニ頃者瀧本教授ノ厚意ニヨリテ幡桃ノ著作タル『大知辨』ヲ通覽スルコトヲ得タルヲ以テ茲ニ同書ニアラハレタル同様ノ論議ヲ抄説シテ幡桃ガ意見ノ全幅ヲ窺ハントス。而シテ所謂『大知辨』ハ大知辨、江戸米價血液不通考及ヒ附録ノ二編ヲ收容シ文化九年七月公邊ニ内密ニ上書シタルモノニシテ、ソノ内容ハ何レモ米價ニ關スル意見ナリトス。

(二)卷首ニ收メラレタル『大知辨』ハ實ハ『夢ノ代』卷六第二十二節(日本經濟叢書卷二十五 三六一—三六九頁)ニ出ツル所ノモノト大體ニ於テ同義同文也。ソノ主旨ハ米價ヲ引下クルコトノ不必要ナルヲ認メ、寧ロ之ヲ自然ニ放任セハ商人ノ營利的行動ニヨリテ米穀ノ供給ヲ増減シ以テ米價ヲ調節シ得ヘキ

コトヲ説キ、更ニ進ンテ大阪ノ米相場ト切手賣買ノ效果トニ論及セルモノ也。即チ曰ク

『アタヒ貴ケレハ米穀ヲ送り來リ、價賤ケレハ積カヘル。民食ノ有無唯價ニアルナリ。價サへ上レバ聲ナクシテ米ヲ呼フヘシ。シカルニ有司ニコノ心ナクシテ唯價貴ケレハ下民苦シムトノミ心得テ日夜價ヲ下ルニ心ヲ盡シ、米ヲ買テ藏ニ入オクモノアレハ大ニ呵リテコレヲ賣出サシム。ソノ地ノ米價ヲ下ケ、ソノ地ノ食物ヲ一粒モナキヤウニ拂ヒ盡サセ、食ヲ畜フノ心ナク明日ニ至リテ民食ナク餓死スルヲマツ。コレ何ノ心ゾヤ』

『國ニ米多ケレバ賤ク少ナケレハ貴シ。ヤスケレハ佗國へ買トリ、高ケレハ佗國ヨリ持來ルナリ。自然ニ任セテヨカルベシ。有司ハ米金ヲ出シ救フ事ヲイトヒテ價ヲ下ケテ救ワントス。ソノ害大ナルヲジラス。凶事ニハ價ヲ自然ニ任セテ食ノ多少ヲハカリ、餓死サセマジトスルハ仁政ノ一ナリ。ユヘニ仁者ハ價ノ貴キヲウレヘスシテ米ノ足ラサルヲウレフ。』

是レ米價引下ノ爲ニ人爲政策ヲ廻ラスノ不可ナ
ルヲ説ケルモノニ非スヤ。而シテ大阪ノ米相場
ニツイテ云ヘル所ヲ見ルニ、ソノ相場ハ東北西
國各地ノ天變地異風雨豊凶ニ應シ朝々暮々入船
入榷ノ度毎ニ高トスルコト恰モ響ノ聲ニ應スル
カ如キモノアリ、即チ『天下ノ知ヲ集メ血液ヲ
カヨワシ大成スルモノハ大阪ノ米相場ナリ』ト
斷シ、ソノ然ル所以ハ切手米ト帳合米トノ兩制
度ニヨリ、コレ等種々ノ事件ニ伴ヒ敏速ニ任意
ニ賣買シ得ルカ爲メナリトス。然ルニ江戸ニア
リテハ切手米行ハレス、正米ノミナルヲ以テ賣
ハ容易ナリト雖、買フニ難ク、奥州西國ノ旱雨
豊凶ノ如キモ直ニ賣買ヲ伴フモノトハ限ラス、
コレ等ノ原因ト米價トハ迅速ニ相應スルコト能
ハサル也。サレバ

『天下ノ知ヲ集メ大成シタル相場ハ大阪ニアリ
テ外ニナシ、古ヘハ江戸ヲ二トセルニ、今ハ
下ノ關ヲ二トスヘシ。コノ處ハ北國西國ヲウ
ケテ上ハ大阪ヲ受クルノ咽喉ナレハナリ。太
津ヲ三トシ尾ノ道兵庫ヲ四トスヘシ、江戸ハ

五ナルベシ』

ト説キ、江戸ニ切手米制度ヲ設ケテ米價ノ變動
ヲ鋭敏ナラシムルノ要アルコトヲ論セリ。蓋米
價ニ應シテ該地方ニ對スル供給ヲ増減シ、以テ
自然的ニ之レカ調節ノ目的ヲ達シ得ヘキヲ以テ
也。

(三)次ニ『江戸米價血液不通考』ハ文化二年春ノ
著作ニカカリ、江戸ニオケル毎年ノ米價騰落ノ
概況ト之レニ對スル調節策トヲ説ケルモノ也。
先ツソノ米價ノ騰落ニ就テ云ヘル所ヲ見ルニ、
江戸中一ヶ月ノ飯米潰レ高十萬石ト假定スルト
キハ一年百二十萬石ヲ需要スル勘定ニテ若シ毎
月十萬石宛入津スレハ相場ハ適當ナルヘキ理ナ
リ、然ルニ實際ニオイテハ十月以降十二月迄三
ヶ月ノ間ニ五十萬石ノ入津アルヲ常トス。是レ
『新石收納スルヤイナヤ直チニ運送シ賣拂ヒ借
金ヲ償ヒ冬ノ費用モ多キユヘ』也。茲ニ於テカ
右三ヶ月ノ間ニ二十萬石ノ殘米ヲ生スヘシ、然
ルニ

『二三十年前ハ買人アリシニ火災繁ク運送費用

鼠喰缺米フケ米ニ懲リテ近年ニ至リテ買人ナシ。ユヘニ二十萬石ノ米賣ントスレハ一兩一石ノ相場忽チニ石二三斗ナリ、終ニハソレニテモ賣レスシテ石四五斗ナル。カクノコトク下リ行テモ買人ナシ

其後一二月ニ又三十萬石入津シテ十萬石餘リ、三月乃至五月ニハ月々十萬石輸送セラレテ三十萬石ノ殘餘米ハ尙處分スルコトヲ得ズ、

イロイロサマサマニシテ東海道へ積トリ、又關八州ノ内ノスクナキ所へ送リテ十五萬石計リ餘リタル所へ、六七月ニ十萬石入コミテ十萬石タラス、殘米ノ内ヲ引テ殘リ五萬石トナル。百二十萬石ノ米ハ七月迄ニ皆着シテ八月ニ米ナシ、米ノ賣殘リ五萬石カ十萬石ヲ以テ二ヶ月ノ食トス

サレバ新穀入津以前既ニ早ク飯米ノ缺乏ヲ告ケテ米價暴騰ス。而シテ『十年ニ七八年ハ』以上ノ如キ有様ナリト云フ。當時米穀ノ一大供給者タリシ武家ヨリ見レハ、財政困難ノタメ米穀ヲ圍持ツノ餘力ナク又圍米ニヨリ『虫鼠ニ喰サンヨ

リハ早ク賣リテ代金トスル』ニシカサルカタメ、冬春ノ間ニ賤ク賣ラサルヲ得サリシハ事情已ムヲ得サル處ナリト雖、マタ『迷惑ナルヘシ』ト云ヘリ。

而シテコレニ對スル救濟策トシテ幡桃ハ米切手ヲ用フルノ必要ナルヲ説キ、江戸ノ米相場ト大阪ノ米相場トノ優劣適否ノ差ヲ生スル所以モ亦爰ニ存スルモノトナセリ。即チ曰ク

『大阪ノコトク切手アレハコノ二三十萬石ノ殘米ヲ買入ル事一石ノ相場石五升トナレバ爭ヒキノフテコレヲ買、一斗トハ下ラサルナリ。シカレハ則去冬一石ノ相場ニシテ今モ同シ事ナルヘキヲ切手ナキユヘニ大ニ下リテ武家ノ損失トナリタル事歎クヘキ事ニアラスヤ。大阪ニテハ毎年西國百萬石入コミテ殘リス是ヲ賣ルトイヘドモソレガタメニ一匁モ下ラサルナリ。コレ則切手ノ功驗ナランカ。今秋關東奥州ヨリ上方西國ニ至ルマテ大豊作ニ聞ヘテ二百十日モ無難ナレハ大阪ノ血脈諸國ニ通シ、價引下ルトイヘトモ江戸ハ現米ナクシテ

下ル事ナシ。タトヘ來月ニハ二十萬石ノ入
コム事目前ニアリトイヘトモ今日ノ飢ライカ
ン。ユヘニ血液通スル事ナク、日々ニ米カス
リテ引上ルノミ。爰ヲ以テ江戸ハ現米ヲ以テ
今日ノ價ヲ立、明日ノ事ヲシラス、大阪ハ古
米新米ノ有高ヨリ今年ノ豊凶ヲカンガヘ來冬
マテノ食アリヤナキヤヲ考ヘテ相場ヲ高下
ス。ソノ血液ノ通不通ヲ見ルベシ、本年ハ大
體ニスゴストイヘドモ萬一凶ニアハバ日前ニ
ソノ備ナクシテ餓死ヲ見ル事アラン、尙々常
ニ大阪コトク切手通用アリテ三五十萬石米切
手ニテ備リアラヘ天下ノ幸甚ナラン。

ト。米切手ノ功ヲ説ク大ニ努メタリトイフベ
シ。而シテ江戸米價血液不通考ナル題名ノ因テ
來ル所亦以上説ク所ニヨリテ之ヲ知ルコトヲ得
ヘキ也。

(四)最後ニ『附録』トシテ掲ケテレタル一論ハ享
和三年文化元年ニオケル米價下落ノ影響ヲ説キ
江戸ニオケル米價引立ノ手段ヲ説ケルモノ也。
先ツ米價ノ下落ニ伴フ武家ノ困窮ヲ論シテ曰ク

『亥子兩年米下直ニ而武家方一統難澁ニ而平日
手厚御屋舗ニ而モ借銀相増候ニ付増テ兼々不
如意之御屋舗ハ利拂茂出來兼猶又借銀相増候
ニ付大阪銀主共モ不操合ニ相候至而手厚銀主
茂萬一當冬下直ニ候ハハ所詮返済引モ出來
申間敷候ト見込、銀子貸シ不出、彌以金銀拂
底ニ相成甚以諸家差支ニ相成候』

更ニ他方面ニ對スル影響ヲ説イテ曰ク

『米下直ニテハ武家方要用辨シ不申候、細民緩
ミ候得共江戸商人共ハ武家ノミヲ以渡世仕候
者ユヘ下直ニテハ商賣不景氣ニテ當時甚及難
儀居候、商人不景氣ニ候得ハ其家ニ出入働候
者稼キ少ク相成是又難儀イタシ候其外右ニ不
掲候者共此下直之時喰延シ貯置候得ハ高直之
時備ニ可相成候得共愚民左様ノ遠慮無之一日
働候得ハ翌日ハ遊ヒ居候様相成、當時大阪杯
ハ材木石等運送イタシ候日雇賃錢高ニ相成商
人又々致難儀候』

即チ米價ノ下落ハ之レカ供給者タル武家ノ困窮
ヲ生スルノミナラス、又武家ヲ相手トセル商人

モソノ影響ヲ蒙ラサルヲ得ザル也。次ニ江戸ノ米直段ト大阪ノ米直段トノ關係ヲ説イテ曰ク、『江戸米直段前々ハ大阪ヨリ高直ニ候故江戸エ大阪ヨリ積廻シ利潤ヲ取候者有之候處近年江戸ハ大阪ヨリ大ニ下直ニ相成候、是一難ニ御座候、大阪ハ天下中之相場ヲ聞合直段相立候或ハ北國下之關江戸大津伊勢紀州等打合直段高下仕候尾州内海ト申所小船渡海自由イタシ所々下直之處ニテ米買入高直之處エ積廻シ賣拂利潤ヲ取候得共、讒五六匁ノ高下ヲ見テ取扱仕候事ニテ江戸エハ小船ニテ廻シ難ク其上十匁已上高直ニ無之候而ハ利潤無之候故所詮當時之姿ニテ江戸積ハ出來不申候。諸國ヨリ大阪へ買注文有之候得共直上リ候得ハ矢張大阪ニ而賣拂利潤ヲ取候事ニ而現米引取候事稀ニ御座候唯江戸エハ現米積廻リ候事不珍候所只今之通下直故其儀無之候諸國之直段聞合候事ハ隙入江戸ハ早ク大阪之高下ニ響キ申候故何分江戸直段引立候様仕度候』

然ラハ如何ニシテ江戸ノ米價ヲ引立タシムヘキ

乎。カノ幕府買上米及ヒ町人買米令ハ既ニ前例存スルコトナレハコレヲ行フモ不可ナシト雖『豐年相續申候得ハ下直ニ相成候事ハ必定ニ候故、買米モ各別大造ニハ相成兼候。』故ニ在米減少ノ手段トシテハ寧ロ糶圍ヲ命スルヲ最モ可ナリトスルモ而モコレカタメニハ新穀廻送以前ニ豫メコレヲ令セサル可ラス。コレ必スシモ容易ノコトニアラス。蓋

『御公儀斗ニテ糶圍出來可申答モ無之、諸家エ可被仰付候ハ勿論ニ候處困窮之御大名ハ收納米不殘賣拂候而モ用辨不足仕候故被仰付候程之高ハ調ヒ申間敷候』

糶テ江戸米相場ノ下直ナル所以ヲ考フルニ是レ全ク切手米制度ノ行ハレサルカ爲ノミ、サレハ江戸米價引立策モ亦コノ點ニ對シテ企劃セラレサル可ラス。

『左候而少ク下直ニ候事不審千萬ニ御座候。是ハ切手無之現米取引ニ候故之事ニ御座候。地面高直ノ所ニテ土藏杯エ引入置候得ハ藏敷モカカリ虫スリ鼠喰等万事費用多ク候故下直ニ

買入不申候而ハ損失ニ相成申候……大阪ニテハ切手故米商人ハ不及申他所他國ヨリモ買注文有之少シ下直ニ候得ハ紙屋呉服屋等トテモ半年位之飯米ハ買置申候夫ユヘ諸國廻リ米不殘冬中ニ賣拂代銀請取候得共米ハ大抵藏ニ預リ居申候肥後筑前等ハ十萬石モ相拂申候處冬中不殘米着不仕候得共賣拂ハ不殘出來申候、是切手之功ニテ天下中ヨリ大阪ニテ米買置候事モ出來申候……他國ヨリ賣買候者モタトヘハ千石買候得ハ一石ニ付五七匁程之直間銀差越候而切手ハ直ニ質ニ入、銀子借り申候ニ付五七匁之銀ニテ千石之買米出來申候。若切手無之候ハ他國ヨリ米注文差越申間敷候萬一切手御停止被仰付候ハ後ハトモアレ即時ニ二拾匁位モ直段引下ケ可申候左候時ハ此切手米ト申事誠有益之第一ニ御座候……唯江戸ニハ是迄切手無之候處近頃仙臺家ヨリ切手賣御願有之由右御免成候ハ追々諸家ヨリモ願上江戸ニテ切手專ニ相成候ハ直段引上可申ト見込米買入候者モ有之候風聞ニ候處今以

右之御免之御沙汰無之候ニ付如何之事哉ト不審ニ存居申候……大阪之勢ヒヲ以相考候得ハ右切手御免之事最上之御儀ト奉存候事』
(五)以上抄說スル所ニヨリ大知辨三篇ニアラハレタル幡桃ノ米價論ハ略之ヲ窺フコトヲ得ヘク『夢ノ代』ニ於ケル米價論ト必スシモ大差ナキコトヲ知ルヘキ也。

而シテ當時ノ諸侯ガ財政窮乏ニ苦ミ新穀收納ヲ待テ一時ニ之ヲ賣出シ、價格ノ高下、時期ノ適否ヲ顧ルノ違ナカリシコトハ既ニ余ガ前掲小著ニ於テ述ヘタル所ナルガ、幡桃ノ右ノ所說ヲ見ルモコノ點ハ否定スルコトヲ得サルカ如シ。メテ這間ノ事情ニ通シタル兩替商升屋平右衛門ノ家業ニ勵ミンノ別家タルノ事實ヲ見バ、當時武家窮乏ノ状態ハ之ヲ知ルニ難カラザル也。又米價引立策トシテ切手米ノ效果ヲ説キ、米相場ヨリ見タル江戸ト大阪トノ地位及ソノ差異ヲ説ケル諸點ノ如キ亦傾聽スルノ價値ナキニ非ルヲ見ル也。